
最初で最後の

空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
最初で最後の

【Nコード】
N9870Q

【作者名】
空

【あらすじ】
へたれな作家が、愛する妻に初めて綴るラブレター。

君はこんなこと書かれたら至極嫌がるだろう。なんてったって、君は活字が大嫌いだから。曰く、『小難しく書いてそれっぽくして、悦に入りたいだけでしょ』と。

だから、僕も作家という仕事一本に絞らず、サラリーマンもやっていた。

誤解しないでほしいが、決してイヤイヤ二足の草鞋をしていたのではない。君を想うと自然とこうなったのだ。だが、不幸と言っているのかわからないが、作家のほうが軌道に乗ってしまい、やむなくサラリーマンをやめた。元々営業マンに向いていなかったことも背を押したが。

その時の君は、本当にいやそうだった。が、僕としては、素晴らしき思い出となって今もなお胸に残っている。

それは僕が作家に専念すると君に伝えた晩の出来事だった。

君は大きいため息をついてから

「私は作家、真嶋陽介という人と結婚したのではなく、真嶋陽介という男と結婚したのに」

と、言った。

君は覚えていないかもしれないが、確かに言ったのだ。白状してしまふと、その一言が嬉しくて堪らなく、僕はこの転機を神に感謝し

た程だ。君が嫌がるこの転機を、だ。

それから僕の本がどんなに売れたって、君は僕の作品を一つだって読まなかった。が、そんなことどうだってよかった。僕が売れなくなっても二人が食べていけるようにと、君が一生懸命仕事をしていたことを知っているし、君の優しさをいつだって肌で感じ、愛おしいと胸が告げていた。いつまでも若々しくいようと、シワを気にしたり、僕がテレビに向かってボソリと「かわいい…」と言った女優をチェックし、その後その女優と同じ髪型にしたことも。どれも愛おしかった。出会ったころからずっと君は僕の愛しい君なのだ。あ、でもあのときのデートは少し根に持っている。

あの日は君に思いを告げようと意気込んでいたのに、あまりの緊張からか、いつの間にか時が無情に流れ、泣く泣く君を送って帰る道程のことだった。

「今宵の月は綺麗だね」

あの有名な文豪の口説き文句を、勇気を振り絞って（パクリではあるが）言ったのに君は何食わぬ顔で

「…そうですか？」

と言ったのだ。

確かに、あの晩の月はお世辞にも美しいと感嘆できる月夜ではなく、そんな晩に言った僕が悪いのだが、君にも何か汲み取れるところはあったんじゃないかと嘆かずにはいられない。

そんな出来事を周りの後押しという完全なる他力本願で乗り越え、無事に結婚までこぎつけた。しかも、あろうことか、恥ずかしくて一度も愛なんて語らなかつた上、語らずとも伝わっているだろうと思っているのだ。だが、この込み上げてくる想いを伝えたい衝動にいつも駆られていた。…そうだ。君の言う通り、作家なんてエゴさ。

君が僕の作品を読まないと言うことを知りながら、君への想いを惜しげもなく、のうのうと綴っている。恥ずかしながら、君へのラブレターだというのに。

ありえないが、もし。

もし、万が一、奇跡が起こり、この羞恥満載のラブレターが君の目に触れる事があるかもしれないと考えただけで、ペンを持つ手が震えてうまく文字を綴れない。作家ではあるが、君の前だといつもだらしのない、愛も語れない、ただの男になってしまう。

君と言う人間がどれほど素晴らしいか、語りたい気持ちは山々だが、読者諸君が君に夢中なると僕の心が平和にならないからここでは自重しよう。こんなこと書いている時点で恥ずかしさこの上なく、読者諸君にとっては良い笑い者だろうが、僕だって必死なんだ。

きつと。

一生、君にこの想いが伝わることはないだろう。最初で最後だ。

心の底から――

（後書き）

ちよつとつめこみすぎましたか。

まとまっていな感ありますが、読んでいただきありがとうございます。
ました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9870q/>

最初で最後の

2011年4月11日04時12分発行